

2017年我が社の環境ビジネス戦略



—昨年10月、アドバンテック・レヒュースと三協興産が戦略的資本業務提携で合意したに伴い、三協興産の新社長に就任したが、初めに抱負を。

「三協興産はこれまで36年にわたり、産業廃棄物収集運搬事業や食品リサイクル業などの幅広い環境ソリューション事業を首都圏中心に展開してきた。一方、アドバンテックは22年にわたり、群馬県を中心に関東一円で、産業廃棄物収集運搬事業を主軸に、同じく環境事業一筋に歩んできた。今回の提携は、強固な財務基盤に基づき経営戦略の下、今まで以上に広域的かつ効果的なサービスの提供を目指したもので、両社がこれまで培っ

たノウハウや強みを融合させ、最大限の相乗効果を生み出していきたい。今回の社長就任は、昨年4月に逝去された三協興産の花澤会長とアドバンテック会長の父が旧友だったことが一番の縁だった。私としては、花澤会長のご意思を最優先に考え決断したつもりである。その過程で両社のシナジー効果を吟味し、この両社であれば業界を二変できるポテンシャルがあると判断した。社員を二倍に考えるアドバンテック同様、三協興産の社員も幸せにできる」と信じている。

—アドバンテック・レヒュースは「幸福総和ナンバーワン企業」として注目されているが、そのポイントは。

「経営理念として『全社員の幸せを通して、世の中に貢献の輪を広げ、幸福総和ナンバーワン企業になる』を掲げているが、その指標として報酬面が一番分かりやすいと考えている。中で稼いだお金をどこから還元するかの考え方が全てだと思っており、まず汗水流し働いてくれた社員に報いる。社員がその家

族を含め、人並み以上に幸せで豊かであればこそ、お客様にも良いサービスが提供できる。その後で初めて、株主や資本家、経営者に回している」といふ絶対的な考えがある。

この理念を証明する経営指標として、例えば、年間の一人当たりの人件費は業界トップクラスで、TKC経営指標に基づき同業大手企業の平均511万2千円に対し、当社は888万2千円となっている。また、社員持株会があり、現在39・6%の株式を社員が所有

来、社員を解雇したことがない。こうした経営が結果的に業績面での好循環をもたらし、人を大切にしている経営者(「発起人の坂本光司・法政大学大学院教授が執筆された『日本ではいかに大切にしたい会社』がわかる100の指標(朝日新聞)」)にも、当社が紹介された

を得敵としており、その他の事業では各種特許権を必要とする他社にはない技術力を強みとしている。一方、アドバンテックは、そうした技術はないが、人材に特化した営業戦略によって、数多くの近分業者とのネットワークを築き、収集運搬業としては全国有数の規模を誇っている点が大きな強みだ。そういう意味

で、この川崎の食品リサイクル工場に入るものは一部の限られたものではない。それ以外のものを断つていたら、せっかくのビジネスチャンス逃がすことになる。産業廃棄物にはいろいろな種類があり、それぞれの処理を得意とする業者も一切違う。中間処理工場や最終処分場を持っている会社は意外と、そうしたハードを生かす戦略を練っていない。機がつかりをあまり重視して来なかった。ハードに固執するあまり、本当に大切なものを忘れてしまっているのではないかと、それは人財であり、共存共栄という考えである。

ノウハウ・強み融合し相乗効果 「地域戦略」拡大で全国展開へ

「経営理念として『全社員の幸せを通して、世の中に貢献の輪を広げ、幸福総和ナンバーワン企業になる』を掲げているが、その指標として報酬面が一番分かりやすいと考えている。中で稼いだお金をどこから還元するかの考え方が全てだと思っており、まず汗水流し働いてくれた社員に報いる。社員がその家

族を含め、人並み以上に幸せで豊かであればこそ、お客様にも良いサービスが提供できる。その後で初めて、株主や資本家、経営者に回している」といふ絶対的な考えがある。

この理念を証明する経営指標として、例えば、年間の一人当たりの人件費は業界トップクラスで、TKC経営指標に基づき同業大手企業の平均511万2千円に対し、当社は888万2千円となっている。また、社員持株会があり、現在39・6%の株式を社員が所有

を得敵としており、その他の事業では各種特許権を必要とする他社にはない技術力を強みとしている。一方、アドバンテックは、そうした技術はないが、人材に特化した営業戦略によって、数多くの近分業者とのネットワークを築き、収集運搬業としては全国有数の規模を誇っている点が大きな強みだ。そういう意味

で、この川崎の食品リサイクル工場に入るものは一部の限られたものではない。それ以外のものを断つていたら、せっかくのビジネスチャンス逃がすことになる。産業廃棄物にはいろいろな種類があり、それぞれの処理を得意とする業者も一切違う。中間処理工場や最終処分場を持っている会社は意外と、そうしたハードを生かす戦略を練っていない。機がつかりをあまり重視して来なかった。ハードに固執するあまり、本当に大切なものを忘れてしまっているのではないかと、それは人財であり、共存共栄という考えである。

「これまで一人でも多くの社員を幸せにしたい」と考えた時、その仲間を300人に増やすという目標を頭の中に描いてきたが、今回、三協興産と提携したことで、その数は約1500人になった。また、北関東圏開業に加え、今後は東北などにも拠点を設ける話があり、この目標が現実的に見えてきたと思う。その実現に向けて、17年は着実に手を打ってきたい。さらに、こうした「地域戦略」の拡大により、最終的にはアドバンテックの経営理念に共感してくれる仲間を全国に増やしていきたいことが私の願望の一つである。花澤会長のような環境に関する大きな展望は語れないが、身の丈に合った経営を一步一步、着実に実現していきたいと考えている」とい

三協興産 代表取締役
アドバンテック・レヒュース 代表取締役

堀切 勇真氏

では、「ソフトのアドバンテックとハードの三協興産」という表現もできるだろう。

両社の融合についてはお話を紹介し合いながら、三協興産で処理できない廃棄物に対してもアドバンテックのネットワークで確実に案内し、トータルソリューションを提供していく。地域的な連携も利便性を高める

「これまで一人でも多くの社員を幸せにしたい」と考えた時、その仲間を300人に増やすという目標を頭の中に描いてきたが、今回、三協興産と提携したことで、その数は約1500人になった。また、北関東圏開業に加え、今後は東北などにも拠点を設ける話があり、この目標が現実的に見えてきたと思う。その実現に向けて、17年は着実に手を打ってきたい。さらに、こうした「地域戦略」の拡大により、最終的にはアドバンテックの経営理念に共感してくれる仲間を全国に増やしていきたいことが私の願望の一つである。花澤会長のような環境に関する大きな展望は語れないが、身の丈に合った経営を一步一步、着実に実現していきたいと考えている」とい

「これまで一人でも多くの社員を幸せにしたい」と考えた時、その仲間を300人に増やすという目標を頭の中に描いてきたが、今回、三協興産と提携したことで、その数は約1500人になった。また、北関東圏開業に加え、今後は東北などにも拠点を設ける話があり、この目標が現実的に見えてきたと思う。その実現に向けて、17年は着実に手を打ってきたい。さらに、こうした「地域戦略」の拡大により、最終的にはアドバンテックの経営理念に共感してくれる仲間を全国に増やしていきたいことが私の願望の一つである。花澤会長のような環境に関する大きな展望は語れないが、身の丈に合った経営を一步一步、着実に実現していきたいと考えている」とい